

本件連絡先

泉南市 産業観光課 担当:高山

TEL:072-483-9974 Mail: nourin@city.sennan.lg.jp

平成 28 年 2 月 26 日

泉南市報道提供資料

泉佐野市政記者クラブ 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦
(担当:藤原)

「泉南市 地方創生事業」

【岡田浦漁業協同組合】×【近畿大学水産研究所】×【泉南市】

産官学連携 泉南アナゴ養殖プロジェクト キックオフセレモニーの開催について

泉南市が実施する地方創生事業「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」のひとつ「水産資源再生事業」において、アナゴの養殖研究を行っている近畿大学水産研究所の技術指導のもと、泉南市にある岡田浦漁業協同組合が主体となり、昨年 12 月より、アナゴの養殖技術者の育成並びに養殖施設整備を進めてきました。

この度、養殖施設の部分竣工を迎え、近畿大学富山実験場から提供されるアナゴの受け入れ態勢が整いましたので、下記のとおりキックオフセレモニーを開催します。

【参考】

○泉南市は、大阪府下の市町村でアナゴ漁獲量第 1 位。

○アナゴは泉南市の伝統の証。

泉南市マスコットキャラクター「泉南熊寺郎」の右手の刀（アナゴ丸）はアナゴがモチーフ

※セレモニー当日は「泉南熊寺郎」も登場！

○漁獲量は減少の一途をたどっている。

(平成 16 年：140t→平成 25 年：25t)

記

○開催日時：平成 28 年 3 月 6 日（日）

・セレモニー：午前 10 時～午前 11 時頃

※同時開催：日曜青空朝市 主催：岡田浦漁業協同組合、午前 6 時半～正午)

○場 所：泉南市 岡田漁港内 日曜青空朝市の会場
(泉南市りんくう南浜 5-4)

○主 催：岡田浦漁業協同組合

○後 援：泉南市

○セレモニー：・主催者あいさつ：岡田浦漁業協同組合 代表理事組合長：角井 秀喜

・来賓あいさつ：泉南市長 竹中 勇人

近畿大学水産研究所 教授 家戸 敬太郎

- ・近畿大学水産研究所からのアナゴの授与式
 - ・養殖施設のお披露目 並びに アナゴの水槽放流セレモニー
 - ・その他（午前 11 時前後から提供予定）
 - （1）近畿大学水産研究所のアナゴの試食（数量限定、整理券配布）
 - （2）ご当地グルメ開発品の試食（数量限定、整理券配布）
- ※地方創生事業「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」のひとつ
「泉南観光資源開発事業」により、大阪調理製菓専門学校が開発中

○事業概要：別紙「産官学連携まち・海・里山活性化推進事業」の概要を参照。

※産官学連携まち・海・里山活性化推進事業は以下の3つの事業で構成

1. 砂栽培プラント展示事業（主体：泉南市）

→東レ建設(株)と連携し、体験型砂栽培プラントを設置・運営。

2. 水産資源再生事業（主体：岡田浦漁業協同組合）

→近畿大学水産研究所と連携し、岡田浦漁業協同組合（泉南市）が絶滅危機に瀕した伝統ある泉南アナゴの養殖を新たに展開。

3. 泉南観光資源開発事業（主体：泉南市観光協会）

→大阪調理製菓専門学校と連携し、泉南市の観光強化に繋がるご当地食材を活用したご当地グルメを開発。



泉南市マスコットキャラクター

「泉南熊寺郎」（H27.10）：右手には「アナゴの刀」（アナゴ丸）

産官学連携まち・海・里山活性化推進事業の概要

- 産官学連携により、それぞれの知識、経験、ネットワーク及び財源をフル活用した事業展開を図り、より効果の高い地方創生事業を推進。
- 農業（里山）と水産業（海）の取組みを一体的に実施し、市街地を含む「まち」全域の地域活性化を図る。

泉南市の1次産業を取り巻く現状と課題

農業（里山）

◇農家の減少

・平成12年：445戸 → 平成22年：336戸

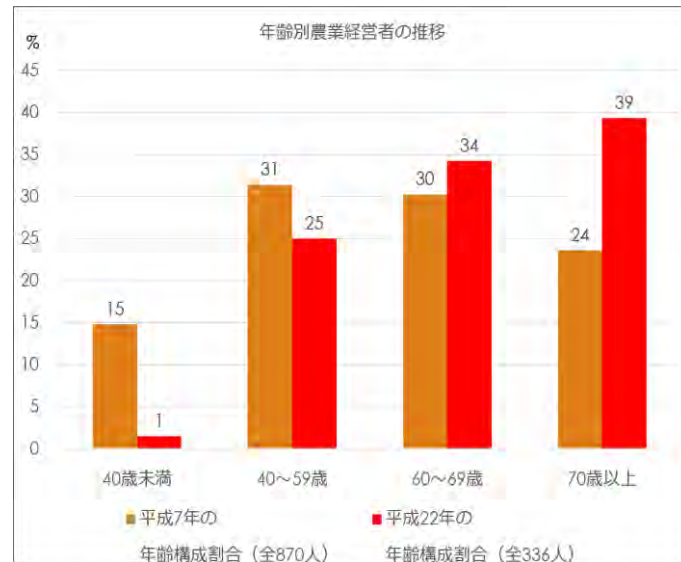
◇担い手の減少（国版認定農業者）

・平成17年：55名 → 平成27年：43名+4団体

◇農地の減少

・平成12年：282ha → 平成22年：223ha

◇農家の高齢化



【課題】

- ・農家の高齢化と農業就業人口の減少による農業生産体制の脆弱化
- ・遊休農地の増加等、無秩序な農的土地利用の拡大

水産業（海）

◇漁獲量の減少（魚類）

・平成16年：315t → 平成25年：230t

◇漁獲量の減少（アナゴ）

・平成16年：140t → 平成25年：25t

【課題】

- ・泉南の伝統魚の絶滅危機
- ・漁場の環境変化等による水産業の低迷に伴う「浜」のにぎわい喪失。

課題解決に向けた産官学連携による取組み

①砂栽培プラント展示事業【連携団体：東レ建設株式会社】事業費：4,500千円（国庫100%）

- 小規模な砂栽培プラントを設置し、市内（泉州地域）の農家・企業に砂栽培の見学・体験機会を付与。
- 砂栽培により、農作業の重労働性の低減が図られ、「省力化」「効率化」農業の展開が可能。

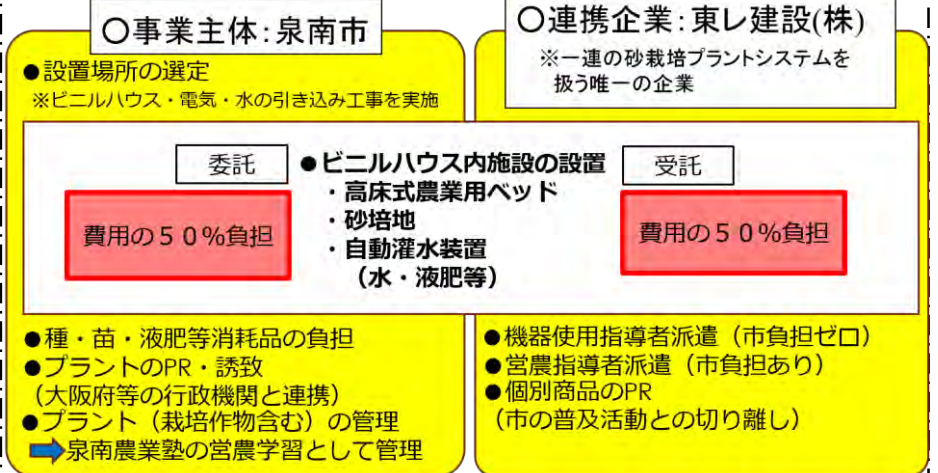
- 農業経営体となる農家・企業の育成・誘致（泉南農業塾の学習施設とし、将来の農業経営に反映）
- 高齢者・障がい者の農業従事を維持・促進。

- 泉南市農業を次世代に引き継ぐ「担い手」の確保。
- 耕作放棄地の抑制等による秩序ある農的土地利用の展開 並びに将来世代に引き継ぐ農業生産基盤の維持。
- 将来にわたり、地場産作物の安定供給化など里山からの恵みを市街地（まち）が享受できる仕組みを維持・強化。



別途、東レ建設(株)1,500千円負担

事業推進体制

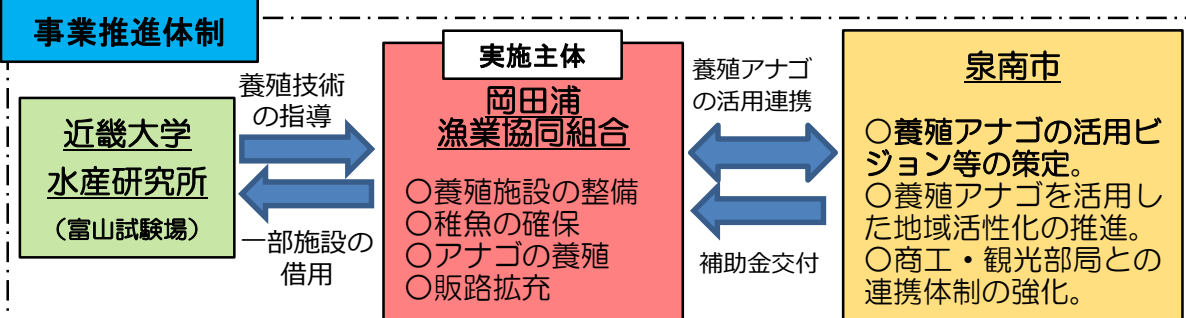


②水産資源再生事業 事業費13,000千円（国庫100%）

【連携団体：岡田浦漁業協同組合、近畿大学水産研究所】

- 激減する泉南アナゴの保全・再生を図り水産業を活性化するため、アナゴの養殖に取り組む。

- 養殖アナゴを観光資源として活用し、海から市街地（まち）へ繋がる雇用創出・地域活性化を図る。



③泉南観光資源開発事業

事業費2,500千円（国庫100%）

【連携団体：観光協会等、調理学校】

- 訪日外国人等の増加を踏まえ、観光強化の一環として、泉南市の「目玉」の開発・発掘を行う。

- 併せ実施する事業と連携し、農水産品を活かした「ご当地スイーツ」の開発と普及・活用を図る。

